

令和7年度

署蔵小学校
 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 基礎基本の定着を目指すとともに、学び合い考えを深める力を育むことができる授業の工夫・改善
- 家庭との連携による生活・家庭学習習慣の確立

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 委員

校長

【各校の取組状況の把握について】

各学期ごとに学力向上検討委員会を設け、成果と課題について検討する。

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○朝の学習やタブレットのドリル学習で漢字や計算等の基礎的な学力が定着してきている。 ○授業中は与えられた課題に真面目に取り組むことができる。 ●教科や単元によって学習の習熟率に個人差がみられる。 ●漢字の定着率が低い児童がみられる。	・漢字や計算を中心とした基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができる。 ・学習規律や学習スキル(聴く・話す)をしっかりと身に付ける。 ・朝の学習、タブレットのドリル学習、自主学習など様々な学習を工夫して取り組み、一年を通して習熟率が安定する。	・基礎学力の定着を図るため、朝の活動や授業の導入で反復学習を行う。 ・朝の活動や家庭学習を中心に、漢字や計算、文の構成(主語・述語・修飾語等)の問題に継続的に取り組ませる。 ・校内支援体制を工夫し、朝の活動など、複数で支援を行えるようにする。 ・聴く姿勢「あいうえお」を定着させる。	・ステップアップテストで課題となった要約については、子ども新聞等を活用し、要約した内容を伝える活動を取り入れる。 ・辞書やタブレットを活用して調べる習慣をつける。 ・聴き方「あいうえお」を適時振り返り、徹底させる。		

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○様々な教科でペアやグループによる話し合い活動を実施することで、児童が互いに考えを広げることができるようになってきた。 ●グラフや表を活用して、結論や答えを見つけることはできるが、理由や考察を述べることに課題がある。	・根拠を明確にして自分の意見を伝えたり、図や式、言葉を使って説明したりすることができる。 ・複数の資料やデータから自分に必要な情報を取り出したり、自分の考えの根拠となる資料を取捨選択することができる。	・自分の考えを発表する際、結論や答えだけでなく、根拠を明確にして発表できるようにする。 ・友達の意見と自分の意見を比べる機会をつくったり、友達の考えをくみ取って説明したりする機会を設ける。 ・文章や図などの大事な部分に線を引いたり丸で囲んだりすることを習慣づける。	・ICT等を活用し、根拠となる資料や考察の過程を提示しながら発表する学習を取り入れる。 ・図や式を用いて導き出した結果や、線を引くなど自分が着目した箇所について友達と話し合う活動を行う。		

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○興味があることやテスト勉強に向けての学習など、自分で課題を設定して自主学習に取り組むことができる児童が増えてきている。 ○読書感想を紹介し合うことで本の世界に広がりが見られた。 ●自主勉強の取り組みの個人差が大きい。	・「学年×10分」の家庭学習に取り組む習慣を身につけ、主体的に学習に取り組むことができる。 ・朝の読書や家庭読書に意欲的に取り組み、幅広い読み物(新聞を含む)を進んで読むことができる。	・自主学習の内容を教科学習にとどまらず、興味のあることにも広げ、主体的に自主学習に取り組めるようにする。 ・自主学習の頑張りを視覚化できるようにすることで意欲を高める。 ・ブックリストを含めた年間目標冊数を満たせるよう、「読書オンリーデー」を設けたり、シールを貼ったりして意欲を高める。	・ブックリストを含めた年間目標冊数の中間発表を行ったり、読書習慣を身につける大切さを、児童・保護者に啓発したりする。 ・図書委員会による読書に関する催しを企画したり、学級の中で本を紹介し合ったりする。 ・個々の自主学習への取組み状況を確認し、適切な助言を行いながら、さらに意欲を高める。		

令和7年度 学力向上ロードマップ

